

## 色と夢とお洒落と

テキスタイル塾講師

染色担当 新木一一

尾州テキスタイルデザイン協会の人材養成テキスタイル塾にお世話になり、若い人の熱心さには共感しました。

私は染色業を創めて40有余年になります。10代の頃、勤めていた染工場に出入りしていた鍛冶屋（染色用の釜をレンガで作ったりしていた）の大将の奥さんが“人は年をとっても色気がないといけないよ。色を忘れたらおしまい。”と教えて下さいました。若かったので何のことか分からず、“色って何？”と尋ねると、その人は“自分を素敵に見せる事。化粧をする事も色なら、着飾る事も色。つまりお洒落をする事さ。”と応えて下さいました。人間は人に喜んでもらえるような仕事をし、自分を常に磨く事が一番大切な事とも教えられました。

ファッションにおいて、10万～20万のものを身につける人もいます。また、安価なものを上手に着ている人もいます。私はどれも上下のないお洒落だと思います。自分らしく生きる事こそがお洒落ではないでしょうか。

今はどなたでも口にするのが中国に負けない物作りです。何かしなければ負けてしまうでしょう。

何かをしなければと言われますが、それではどんな事をしたら良いのでしょうか。中国に真似されないものとよく言われますが、その様なものはほとんどないと思います。ないと言うよりはほとんど時間が経てばできると思うのです。

日本の繊維もわずか50年しか経っていないとも言われていますが、日本の物作りの50年

は、繊維だけでなく他の産業でも苦勞して確実に経験・技術を積み重ねて完成させてきたものです。しかし、バブル崩壊後この大変な時期に、今一度、数10年前のハングリーな時代の気持ちに、何人がなれるのでしょうか。

“多くの人々が仕事を持っていけば相手はやってくれるのだ”また、“出す方は仕事をやらせてやるのだ”と言った考えで来たのではないのでしょうか。本当の仕事とは出す方も貰う方も相手様に喜んでもらう気持ちがあるかどうかです。何も競争相手は中国だけではなく、ヨーロッパに負けない物作りをする事も大切な事ではないでしょうか。

これからの大切な事は、メーカー各社が団結し、協力し合って自信と自覚をもって産地再生の基を築いて行く事だと思います。

染色を始めた頃いつかは自分で素敵な仕事がしたいと思い続けたものでした。ダブルクロースのスジ糸、ネーム糸、シルクなどを手で染めた事もありました。

物作りで大切な事は仕事が好きで自分に妥協しないで一時も休まず夢を持ち続ける事だと思います。

今ここにきて大変安い物が出てきていますが、これからは、より本物でこだわりのある物作りや地球にやさしいもの、癒されるもの、そんな物が残るのではないのでしょうか。

多くの先人の経験や知識を教えられ技術を研いて努力すればきっと夢がかなうと思います。素敵な「色」を見つけに行きましょう。